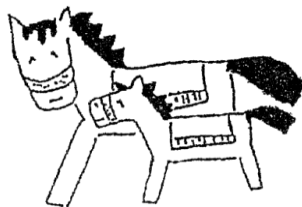


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

24年 4月 NO. 209



(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～

4月の主な活動

～お気軽にどうぞ～

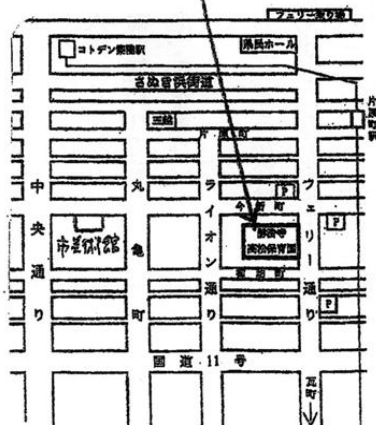
4月 4日	水	救命・災害講習会 14:00～15:30	救命や災害時のAEDや消火器の使い方について 高松市北消防署からの講習をうけます。
4月 13日	金	おはなしの会 10:30～12:00	3歳以上の園児と一っしょに「春がきた」 などをテーマに手あそびや大型絵本を 楽しみましょう。
4月 14日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
4月 21日	土	木工教室 14:00～16:00	木製品の修理もできますので お持ち下さい。
4月 26日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	香川県出身の童謡作家村山篝子さんの 作品を知ろう！（絵本や紙芝居を見ます）
4月 27日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり 相談できます（予約要）
4月 28日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も保育体験においで下さい。

・火～金の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、保育園生活、
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話集
「このみちをゆこうよ」より

魚売りさん、
こっち向いてね、
いま、あたし、
花をさしたの、
さくらの花を。

山のかんざしよりかきれいな花が、
山のさくらがさきました。

ほうら、おばさん、
あなたのかみに、
あのお芝居のおひめさまの、
なにかんざしも、
星のよなピンも、
なんにもないもの、さびしいもの。

さくらの花を、
花をさすのよ、
いま、あたし、
あっち向いてね、
魚売りさん、

魚売りのおばさんに

当園でも卒園式が終り新生活にむけて子どもたちは旅立ちました。次の新入園児をむかえる準備がはじまっています。

2月から3月にかけて豊島中学校1年生4人が職場体験と高松短期大学1年生、四国学院大学2年生が保育実習に来ました。中学生も大学生も将来保育士をめざしています。それぞれ時間も日数もちがいますが、子どもとかかわってどんな気持ちだったのか今回はそれをご紹介します。

豊島中学校1年生の職場体験より

○大人とちがって子どもの笑顔は純粹だと思いました。子どもたちは、家族も参加する行事が好きだとのことでしたが、家族といっしょに活動したり、家族に見てもらいながら活動するのが好きなのはみんな同じなんだろうと思いました。

2歳児のつぼみ赤組のところに行ったときは食事中だったので、外でいっしょに遊ぶようなことはありませんでした。その時に2歳児なのにほぼ全員が上手にはしを使って食事ができていたので驚きました。その上、食事中は正座で、あまりおしゃべりすることもなく食事ができていたので、みんな保育士の方々にしっかりと教えてもらっているんだろうと思いました。

保育士の方々ががんばっているからこそ、子どもたちは楽しんでいられるんだろうと思いました。
(つぼみ赤組・Yさん)

○副園長先生が一番盛り上がる行事は、家族が来てくれるものということを教えてくれました。例えば、運動会や遠足、発表会などの行事です。その中でも一番盛り上がるのは入園式と卒園式と言っていました。私は入学や卒業というのは、どの世代でも一番大切に、一番盛り上がる行事なんだなと思いました。それと私たちは遠足という親はついてこなかったもので、少し驚きました。

私は2歳の子どもがいるつぼみ青組に行きました。ちょうどお昼ご飯の時間でした。まず、手を洗うために、シャボネットをみんなの手にかけてあげました。みんなといっしょに私も洗っていると何回も洗うことになってしまい計5~8回くらい手を洗いました。そのあとご飯を食べていない子がいたので、食べさせたり食器を片づけたりできました。

私は園児がたくさんいる保育園にはじめて行ったけど、たくさんいても先生はみんなのことをちゃんと見ていました。親は安心してあずけられるのだろうなと思いました。将来自分が仕事についても、子どもを安心させてあげられるようになりたいと思いました。
(つぼみ青組・Hさん)

○わたしは高松保育園に行って次のようなことを学びました。それは、保育士さんは子ども達にやる気をもらい、やりがいを感じるということです。わたしも、職場見学をしてみて「本当だな」と思いました。

職場見学の時にわたしは友達の写真も好きだけど小さな子ども達の笑顔はすばらしく輝いているように見えました。

私は1才の子ども達にごはんをあげたり、遊んだりもでき良い体験になりました。

遊ぶときに「おねえちゃんだっこ」や「おねえちゃんおんぶ」などと子ども達から言ってもらってうれしかったです。しかし積極的に話しかけてくれる子とは遊べたけれどおとなしい子とはあまり遊ぶことが出来なかつたので難しいなと思いました。

わたしは保育士は気配りが大切だなと思いました。(はと組・Nさん)

○保育士という仕事は体全体を使って子どもとふれあう仕事だということが分かりました。

つくし組にいった時には、子どもたちはごはんを食べていました。Nちゃんがスプーンをわたしてきたので、やさしく「どれが食べたい」と聞くと指をさしてくれ一口サイズにしてあげるとうれしそうに食べてくれ私もうれしくなりました。

遊ぶときには保育士さんは立つ位置・すわる位置を工夫して子どもたち全員が見えるようにしていたので、すごいと思いました。ブロックと一緒に遊んでいるとみんな自分の作品を見せてくれうれしかったです。見せてくれた時に「すごいね」というとうれしそうにしている、とてもかわいかったです。

帰る時にはみんなが「もう帰っちゃうの？」というような顔で私を見ていました。

保育士は子どもからたくさんの笑顔をもたらえる素敵な仕事だと思いました。

私は将来保育士になりたいと思っています。高松保育園の皆様みたいに毎日子どもを笑顔にできる保育士さんを目指してがんばりたいと思います。

(つくし組・Kさん)

高松短期大学1年生及び四国学院大学2年生の保育実習より

○実際に保育士の方々の援助の仕方を見て、子どもの意欲ややる気を引き出す言葉のかけ方やその子のその日の気分や体調を踏まえたうえでの援助の加減など、まだまだ自分には努力が必要だと感じた。もっと子ども一人ひとりのことを観察し、「この子は昨日できていたからできるはず」と判断できたり、「朝から様子がいつもと違うな」と感じとったり、ふさわしい援助に繋がる技術を少しずつ身につけていきたい。

子どもと関わるのはとても難しいと感じた。その日の気分や体調、また家庭環境など、一人ひとりの様子は毎日異なってくる。うまく子どもと付き合うためには、まず子どもの気持ちをしっかり受けとめて理解することが大切なのだと思ふことができた。また、保育士の方々は常に子どものことをよく見ており、子どもへの愛情の大きさを感じた。私ももっと広い視野を持ち、子どもたち一人ひとりに目を向けれるようになりたい。そして、次の実習では一人ひとりと良い関係を築いていければいいなと思ふ。とても充実した2週間であった。(つぼみ赤組・Yuさん)

○特に2歳児クラスで力を入れているのは排泄だと思います。おむつをしている子どもに関しては、排泄の時間以外にも子どもの表情や行動を見ながら声をかけ、排泄へ促すようにしていました。何度かトイレの補助をさせていただきましたが、保育者の方々の

模倣をしながら、そして常に子どもが排泄できた時には共に喜び合おうと心掛けて援助することができました。実習が始まった頃によくおむつで排泄をしてしまっていた子どもが、きちんとトイレでできた時に「～ちゃん、一人でできてすごいね。かっこいいね。」と声をかけるととても嬉しそうで次の排泄時に私のほうに寄ってきて「先生、ひとりでするから見てね」と言って排泄ができました。何日か経つと「先生、今日はお姉ちゃんパンツ履いてきたんだよ」と日々の成長が感じられたこと、そして自分が少しかもしれないがその援助ができたことがとても嬉しかったです。

(つぼみ青組・Tさん)

○約2週間の実習を通して、学校では見ることのできない実際の子どもの姿を見ることができました。

初めて保育園へ来たとき、子どもとのかかわりをどのようにすればいいのかわからず戸惑っていました。そのため決まった子にしかつくことができなくて先生に言ってもらって自分があまり周りの様子を見ることができていないことを知ることができました。それからなるべく子どもたちの生活の様子を見ていると、子ども一人ひとりの違いを見つけることができました。例えば、園庭で遊んでいたときには一番に三輪車に乗る子がいたりスコップと器のおもちゃを持ってきてままごとをしたりお団子を作って遊ぶ子がいたり好きな遊びが一人ひとり違っていました。

(はと組・Iさん)

○クラスの子ども達にも慣れてきて、それまであまり関わるることができていなかった子どもたちと積極的に関わっていくうちに、その子どもたちの新たな一面を発見していくこともできました。興味を持ってもらえないからと言って子どもから逃げていたのは私の方だったのだと反省しました。その他の子どもでも私が勝手にその子どもの性格を決めつけていた部分があったので実習前とは大きく一人ひとりの印象が変わったり、毎日子どもたちの関係が深くなってきている気がしてとても充実感を感じました。その反面、子どもが言うことを聞いてくれなくなってきたことにも悩まされました。私が注意しても子どもにとっては「恐くない先生」なのでなかなか思うようにすることが出来ませんでした。そんな時、ある保育者の方からアドバイスを頂きました。それは、子どもは保育者の目を見て判断しているということです。目が真剣だと子どもは本当にしてはいけないことだと分かったりするとのことです。他の保育者の方は、声を低くして注意することも必要だと教えて頂きました。子どもと楽しく笑うだけの保育者ではなく、悪いことはいけないと知らせることが出来る保育者にもなろうと思いました。

(つくし組・Kさん)